

県外派遣報告書

（社）栃木県バスケットボール協会 審判部

大会名	令和5年度全国高等学校総合体育大会 バスケットボール競技大会	開催地	北海道 札幌市
報告者名	若林謙作	派遣期間	令和5年7月24日 ~ 7月26日
講師	塩谷禎 岩井遥河 古畑香子 平出剛 北沢あや子 久米克弥 阿部ちひろ 小田中涼子		

【審判研修会】

7月24日(月) 13:30~19:00

【研修①】「研修会テーマ設定の意図・大会運営にあたって」	担当講師：塩谷氏 岩井氏
研修会テーマ	
<h3>「コール・ザ・オヴィアス～3POメカニクスの実践から～」</h3> <p>「処置ミスゼロに向けて」 ※2019鹿児島IHから継続的な取り組み</p>	
〈テーマ設定の意図・背景〉	
<p>全国どこへ行っても同様のメカ・プレゼンへの理解が進む中、「正しい判定」が進められているか、、、？</p> <p>東京オリンピック、FIBAアジア、W杯、NBA、Bリーグ、スポーツくじなどバスケットへの注目が増す中、より目の肥えた観客や選手が多くなっていく。またSNSやメディアへの対応にも注目が集まっている。</p> <p>コロナ禍が明けて最初の全国大会で特に注目されている。</p> <p>明らかなものをコツコツ判定し、誰にでも分かりやすい判定をすることが求められている。</p> <p>プレゼン・メカ≠判定 正しいメカを知っていても、判定に活かせていない。 外見と中身を合致させていきたい！！</p>	
〈実際に起きている事案〉	
〈映像（導入）〉 ・プロテクトシューター	※怪我につながるケース 的確に判定していきたい。
・イリーガルスクリーン	※プロテクトシューターについてのPOC
・シリンダー	着地点に遅れてDEFが位置する（ブロッキング）
〈行動規範（確認）〉	
〈PGC〉 ～様々な内容の共通理解の場～	
①ゲームの方向性をはっきり示す	②一方通行ではなく、双方向を意識する（クルー間で）
③スカウティングの共有（役割分担）	④クルー一人一人の特徴や課題を共有

【研修②-1】『コール・ザ・オヴィアス』	担当講師：小田中氏 古畑氏
「コール・ザ・インパクト&ベーシックなプレイコーリング」	
◎分かりやすく、的確な判定を積み重ねることで魅力のある試合へ	
<p>知っている≠自分がコート上でできる ⇨ 判定につながっていない</p> <p>・質の高い判定はベーシックな判定の積み重ね → 質の高いゲーム運営に</p>	
〈コール・ザ・オヴィアス〉	
<p>  <ul style="list-style-type: none"> ・コール・ザ・ベーシック ・コール・ザ・インパクト … クルーとしてゲームにとって絶対的に必要なコール <p>ゲームを正しい方向に進めていく</p> </p>	
<p>・コンタクト≠全てファウル</p> <p>コンタクトを分析し、リーガルorマージナルorイリーガル</p> <p>・発見→分析→決断（プレイを長く“捉える”） → ベーシックなメカ、IOTを実行することで安定した判定につながる</p>	
◎高校生のゲームの特徴（各ブロック大会の映像をもとに）	
<ul style="list-style-type: none"> ・イリーガルシリンダー ・イリーガルな手・腕の整理（ショットに対するファウル、ドライブ中の手、ポストアップ） ・スクリーンプレイ ・ブロッキングorチャージング ・プロテクトシューター（POC：空中にいる時→プッシング、着地点→ブロッキング） <li style="padding-left: 20px;">A地点→B地点（B地点で最初にLGPを占めていない場合） ・UF ・TF ・トラベリング 	

【研修②-2】『コール・ザ・オヴィアス』

担当講師：平出氏 久米氏

「3POメカニクスからの分析・CW / GC」

○ポジションアジャスト

常にオープンアングルを維持するために、プレーに合わせて位置を変えることが重要。

○プライマリ

エリアとアングル。プライマリアreaとアングルを明らかに持っているレフェリーが判定できるケースであれば、シングルコールが理想。不必要なダブル・トリプルコールは回避したい。

○セカンダリー（ケイデンスホイッスル）

まずはプライマリのレフェリーに判定を預け、何らかの理由で鳴らなかった場合にセカンダリーとして、ケイデンスホイッスルを実践する。どんなレフェリーにも「見えない」「分からない」「判断に迷う」ことがある。**CCM！！**

○チェックイン・チェックアウト

ローテーション中のプレーの受け渡しは、必ずプレーを受け取る側のレフェリーがチェックインしてから、それまでチェックインしていたレフェリーがチェックアウトする。

○デュアルカバーレッジ、プライマリーテイク

2人の判定のプライマリアreaが重なり合う部分において、それぞれのレフェリーが同じタイミングでコールした際に、すぐに判定を下すのではなく、両レフェリーがアイコンタクトを取り、どちらがプライマリーテイクをするのかを確かめる。

○トランジションでの判定

動きながらの判定となるため、判定の精度が低下する可能性がある。プレーを予測したポジションアジャストが重要。

○ターンオーバー後の判定

トランジションでの判定と同様にプレーを予測しポジションアジャスト。また、リードのローテーション中にSTL-TOが起きた場合は、その時点でTとC、どちらが「ビジー状態なのか」ビジーでないレフェリーが判断し、他のクルーが合わせる。

○3Por2P（プロテクトシューターを含）

つま先を見にいくな習慣を身につけた上で、Tはロートレイルを実践。Cはベーシックポジションか、ハイまたはローのポジションを選択する。また、速攻やスクリーンからのプレーではクルーの協力が必要。

○EOQ、EOG（クロック管理）

プライマリはオポジットサイドのレフェリーか、センターかを確認の上、責任の所在を明確に！

○その他のケース（フリースロー、ジャンプボールなど）

いかなる場面においても、ベーシックなメカニクスを実践。（誰が何を見るのか、、、）

【研修③】「処置ミスゼロを目指して ～TOとの連携と役割～」

担当講師：北沢氏 阿部氏

○Refereeの役割

- ・ルール・ガイドラインの理解
- ・プレゲーム・ポストゲーム
- ・メカニクスの理解
- ・プレーヤー、コーチとの協力
- ・TOの管理
- ※基本の徹底が一番の処置ミス防止策

○処置ミスとは

- ・クロック
- ・No.コール
- ・ファウルの数
- ・FTの数
- ・シューターピック
- ・同時刻入退場

〈防ぐことができる〉…ルールの適応ミス、メカの崩れ、TO任せ

〈防ぐことが難しい〉…機材トラブル、メンタル、ノイズ

○処置ミスに繋がらないための対処法

→ルール・クルー・TOの3つを利用して、どんなトラブルが起きても正しい判定を導き出す。（処置ミスしない）

（例）クロック管理、OOBのヘルプ・訂正、EOQ・EOG

正しい判定の積み重ね



プレーに集中させる環境の構築



全力を尽くし、Gameを無事に終わらせる

○Case Study

- | | | | | |
|------------------------|------------------|----------------------|-----------------------|------------------------|
| 01_3or2 | 02_EOQ(New rule) | 03_EOQ(Early buzzer) | 04_Game clock | 05_24sec(Miss restart) |
| 06_24sec(Ball control) | 07_FT | 08_TO communication | 09_Crew communication | |